

今日からはじめる防災 ～普段からできること～

- 人によって必需品は違います。

“自分だから”
必要なものをプラス!!



「自分だから必要なもの」を考えて入れておいたり、事前に入れられないものは忘れないように紙に貼っておくなどしましょう。

例えば…
お薬手帳のコピー、離乳食、ハンドクリーム、
下着、汗ふきシートなど

水や食料品など誰にとっても必要なものは比較的早く支給されますが、特定の人だけに必要なものは支援側も気づきにくく、配給されないことがあります。

- 災害時、どこに避難する？

普段から、避難先の情報を確認し、避難所に行くのか、在宅避難を選ぶのか、家族でよく話し合う必要があります。

子育て家庭では、親は職場・子どもは学校という場合が多く、親子が別々に避難することになります。このため、様々な想定が必要です。連絡方法や集合場所などをきちんと決めておきましょう。

- 自分の身は、自分で守る!!

地域の避難訓練に参加したりするなど、いざという時に、お互いが助け合える関係を作りましょう。



H30年度
壱岐市で実施した『HUG避難所運営ゲーム』
避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

女性や子どもに対する暴力や犯罪

避難所や避難先などの集団生活では、プライバシーがなくなり、女性や子どもを狙った性暴力・ドメスティック・バイオレンス（DV）が増加傾向にあると報告されています。

DV…配偶者、内縁の妻・夫、交際相手などの親密な関係にある、またはあった人から受ける暴力

避難所に更衣する場所がないので更衣室をダンボールで作ったところ上からのぞかれた。
(13～16歳女子)
更衣室を利用する際は見張りを立てるようにした。

避難所に避難している父親が母親に対して怒鳴ったり、物を投げつけたりする。子どもに対しても大声を出したり怒鳴ったり、無視する。それが周りにいる幼い子どもたちの精神的苦痛になっている。(年齢不明女子)

震災で失業した父親が自宅で大声を出したり、物にあたったり、母親を殴ったりする。また、障害のある子どもに大声をあげたり、無視する。
(6～12歳女子)

被害者になるわけではなく、必ず女性や子どもだけが

授乳しているところを男性にじっと見られる。
(30代女性)
警察に連絡したら、巡回の回数が増やされた。その後、授乳スペースが設けられた。

被災地支援にあたっている男性職員から同僚の女性職員に、車で一緒に移動している際に、あからさまな性表現を含む言葉などのハラスメントを受けた。(20代女性)

男子が避難所にいる顔見知りの男性に下着を脱がされた。
(6～12歳男子)

出典：東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書

ポイント 「こんな緊急時に起こるはずがない」といった思い込みは危険!!

- 災害時には、空き巣など様々な犯罪や性被害、DV 発生のリスクが高まります。
- 普段起きていることは緊急時にも起こるといった認識を持つことが大切です。